

基礎薬学特論Ⅲ

責任者：名取 泰博 教授

担当講座（科）：衛生化学講座、細胞病態生物学講座、分子細胞薬理学講座

講義 15 時間
単位 1 単位

学 年

4 学年 後期

学習方針

基本理念：

基礎薬学特論Ⅲでは、衛生系・生物系・薬理系の4年間の薬学教育の復習とまとめを行い、各科目の知識と技能を統合して考察する能力を身につけることを目的とする。従って、授業は各担当講座が分担して行い、広範囲の分野に渡る知識を体系的に学ぶ。更に、これらの学習を基礎として、より専門性の高い最先端の知識や技術に関しても学び、専門知識を総合的な観点から有機的に体系づけて学習する。

一般目標（GIO）：

衛生化学Ⅰ、衛生化学Ⅱ及び環境科学で講義した内容について、他の専門科目を学んだ上でさらに理解が深められることがらを選んで概説する。具体的には、実際の臨床研究を例とした疫学の進め方や、生活習慣病の発症機構や病態を踏まえた上での予防の意義付けなど、基礎を学んだ後の、実例に即した衛生薬学の講義と議論の場とする。

細胞生物学及び病態生化学の講義で学習した事項から特に重要なものを抜粋して復習し、関連する知識を整理統合する。また、細胞工学や遺伝子工学を応用した最新の臨床診断や治療法に関して概説し、今後の展開や問題点を理解する。

一連の薬理学分野の講義及び薬理学実習に関する基礎知識の再確認と総まとめを行う。以て、臨床薬学系科目の学習への薬理学の活用と、円滑なる実務実習への橋渡しとなることを目指す。

到達目標（SBOs）：

1. 生活環境や環境中の化学物質と人の健康との関わりについて、その概要を説明できる。
2. 栄養素や食品が健康に及ぼす影響の概要を説明できる。
3. 感染症や生活習慣病などの予防とその科学的根拠の概要を説明できる。
4. 細胞の構造と機能に関与する生体分子をあげて、概要を説明できる。
5. 細胞内情報伝達に関与するメディエーターをあげて、概要を説明できる。
6. がん、炎症、アレルギーに関与する遺伝子・タンパク質・治療薬の概要を説明できる。
7. 薬物の作用する仕組みについて、その概要を説明できる。
8. ヒトの身体の構造と機能について、その概要を説明できる。

9. 薬物の有効性と有害作用について、その概要を説明できる。
10. 代表的な薬物の効果の観察と作用機序を関連付けて説明できる。

講義日程

月日	曜	時限	講座(科)名	担当者	内 容
8/26	木	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	環境因子と健康
9/ 2	〃	〃	〃	〃	栄養、食品と健康
9/ 9	〃	〃	〃	〃	病態生理と疫学に基づいた疾病予防
9/16	〃	3	細胞病態生物学講座	北川 隆之 教授	細胞の構造と機能
9/30	〃	1	〃	〃	細胞内情報伝達
10/ 7	〃	〃	〃	〃	がんと炎症の細胞生物学と治療薬
10/14	〃	〃	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	薬理学総論
10/15	金	3	〃	弘瀬 雅教 教授	生体の仕組みと働き
10/21	木	1	〃	〃	安全薬理学
10/28	〃	〃	〃	中山 貢一 教授	薬理学演習

教科書(教)・参考図書(参)・推奨図書(推)

	書 名	著者名	発行所	発行年
教	衛生薬学 (衛生化学Ⅰ、環境科学)	佐藤 政男 他	南江堂 (定価 7,000 円)	2008
教	細胞生物学 (細胞生物学Ⅰ、Ⅱ)	永田 和宏 他	東京化学同人 (定価 2,400 円)	2006.12
教	人体機能生理学 改訂第4版 (薬理学Ⅰ)	杉 晴夫 他	南江堂 (定価 10,000 円)	2008
教	薬理学マニュアル 第4版 (生命と薬)	高柳 一成 他	南山堂 (定価 4,800 円)	2008
教	New 薬理学 改訂第5版 (薬理学Ⅱ、Ⅲ)	加藤 隆一 他	南江堂 (定価 8,800 円)	2008
教	医薬品安全性学 (医薬品安全性学)	漆谷 徹朗	化学同人 (定価 3,780 円)	2008
参	スタンダード薬学シリーズ4「生物系薬学Ⅱ 生命をミクロに理解する」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 2,400 円)	2005.6

成績評価方法

出席、レポート、試験等から総合的に評価する。

オフィスアワー一覧

授業を担当する専任教員氏名	方 式	曜	時間帯	備 考
衛生化学講座 名取 泰博	B - i			事前に連絡があると確実です。
細胞病態生物学講座 北川 隆之	B - ii			研究室に問い合わせる。
分子細胞薬理学講座 中山 貢一	B - ii			
分子細胞薬理学講座 弘瀬 雅教	B - ii			事前に連絡があると確実です。